

「救命・救急講習会」

2018. 7月 (ヨシクマ新聞より)

胸骨圧迫など熱心に 夏休み控え救命講習

五郷中

熊野市五郷中学校(高田有治校長)で29日、夏休みを前に救急救命講習会が行われ、生徒3人と教員、小学校の保護者ら約20人が心肺蘇生法などを学んだ。

季節を控えたこの時期に毎年、開催しているもの。万一の場合に備え、救急車到着までに施すべき措置を学習し、命を守る技能と心構えを身に着ける目的。開会にあたり高田校長が「救急法の手順を知っているのと、実際に出来るのとは違う。本当に目の前で大切な人が命を奪われそうになった時、しっかりと処置が出来るように取り組んで下さい」と呼びかけた。

この日は熊野市消防本部の職員が講師となり、生徒たちに心肺蘇生法や自動体外式除細動器(AED)の使用方法を指導。生徒たちは実際に心肺蘇生法などに

挑戦し、胸骨圧迫や人工呼吸などに真剣な表情で取り組んでいた。



【AEDの取り扱いを教わる生徒】



もしもの時に備えて、命を守る技法と、心構えを学ぼうと「救命救急講習会」を開催しました。頭で分かっているだけではなく、学んだことをどう使うのかが大切であると考え、毎年、講習会を開催しています。当日は、保護者の皆様にも参加いただき、ありがとうございました。